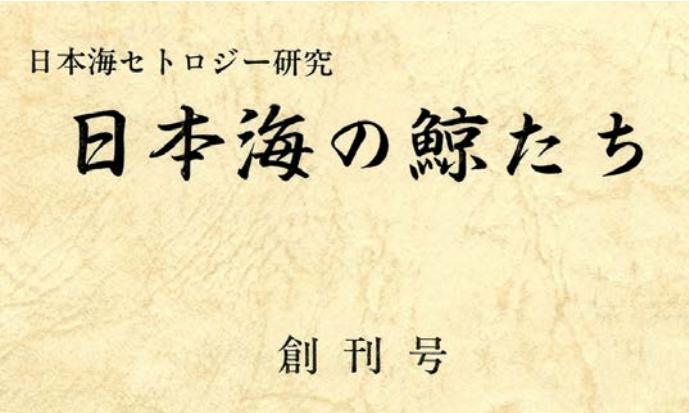

セト研と「日本海の鯨たち」

セト研の定期刊行物『日本海セトロジー研究』（会誌）の創刊号から第七号までの表紙には、「日本海の鯨たち」という副題がついています。また、情報誌『セトケンニューズレター』の第一二号～第一六号にも同様の副題が付されています。本号からこの副題をはずすことになりましたが、その経緯を説明し、セト研の由来を深く心にとどめるとともに、今後のいっそうの発展を期したいと存じます。

『日本海セトロジー研究』創刊号（一九九一）に「日本海の鯨たち」という副題がつけられたのは、セト研発足の中心となられた初代代表、故山田致知金沢大学名誉教授です。その毛筆体は山田先生の手によるものではありませんが、親しみやすい言葉で表現した副題が本題よりも大きくレイアウトされている背景には、本会を専門家だけの堅苦しい組織にはしたくないという先生のお考えがありました。また、本会がグループという名称で発足したのも同じ趣旨によるものです。

ところが、発足当初三一名を数えた個人会員は年々増加し、創立一〇周年を迎えるころには一三〇名を越え、北海道から九州まで全国に及ぶようになりました。また、普及活動の一環としてニューズレターを発行するようになりますと、親しみやすい一般記事はそれに掲載され、会誌のほうは専門的な論文誌としての性格が強まりました。漂着鯨類にたいする対応はもちろんのこと、毎年研究集会を開催してきたセト研は、会員数の点でも活動内容の点でも、グループというよりも研究会といったほうが実態に即しており、さらに会の充実をはかるには会の名称を研究会とし、会誌の名称も日本海セトロジー研究のみとしたほうがよいということになりました。その案は、第九回研究会（現大会に相当）の総会（一九九八）において承認されました。その際、初代代表のご遺志を尊重し、「日本海の鯨たち」という副題はニューズレターのほうに移させていただくことにいたしました。ただし、セト研の英語表記は当面 The Sea of Japan Cetology Research Group でいくことになりました。

先般、新潟市で開催された第一二回大会の総会では、「第二条　本会は主として日本海の鯨類およびその他の海棲哺乳類に関する研究、普及および情報収集のためのネットワークづくりを推進するとともに、会員相互の交流と親睦を図ることを目的とする」など、会の研究対象が日本海や鯨類に限定されたものではないということを明確にするための規約改正を行いました。規約改正の直接的な動機は、事務局の置かれている機関の性格上、鯨類だけでなく鰭脚類なども対象としていることが望ましいという事情によりますが、「主として日本海の」とした理由は、漂着にしても、化石にしても、考古遺物にしても、あるいは文献データベースにしても、日本海の鯨類だけを対象とするのは現実的でなく、日本全国はもとより、世界的な視野が必要であり、事実そのような取り組みをしてきたということにあります。将来的には、「日本近海の鯨類およびその他の海棲哺乳類」としたらどうか、日本海セトロジー研究会ではなく日本セトロジー研究会、いやいっそのこと単にセトロジー研究会にしたらどうかといった案も出ているくらいです。以上のような話の流れのなかで、ニューズレターの副題「日本海の鯨たち」をはずしてほしいという要望がありましたので、この件については、総会後、幹事会で検討して結論を出すということになった次第です。

現在セト研は、個人会員・団体会員・賛助会員合わせて約一五〇を数え、専門家だけでなく、一般愛好者を含む各界の人たちで構成されています。この特徴を最大限に活かし、「日本海の鯨たち」に象徴された精神をもって、日本はもとより世界の鯨類およびその他の海棲哺乳類を対象に活動を展開し、また会員同志の親睦を深めていきたいと存じます。今後ともみなさま方のいっそうのご協力をお願い申し上げます。

（セト研代表平口、幹事一同）

（ひらぐち・てつお　金沢医科大学）セトケンニューズレターNo.17.2000.8.25から転載